

村山民俗学会

第 411 号

発行日 2026年1月1日

発行責任者 相原 一士

編集担当 岩鼻 通明

新年のごあいさつ

相原 一士

あけましておめでとうございます。今年は当会の会誌『村山民俗』が第 40 号目を迎えます。これまでの皆さまのご投稿・ご支援に感謝申し上げますと共に、更なる多くのご投稿をお待ちしております。

先般、文部科学省の文化審議会にて、2028 年のユネスコ無形文化遺産登録に向けた日本の候補として、「神楽」を提案することが決まったと報じられました。民俗学の対象となる分野が評価されるのは喜ばしいことです。神楽に限らず伝統行事は、担い手不足で継続が危ぶまれる団体も少なくありません。民俗行事がユネスコ無形文化遺産登録候補となったことで、そうした問題に多くの人々が目を向けるきっかけとなればと考えます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

天童町上水道 100 年のあゆみ

村山 正市

天童市で古い公共上水道は、高揃陣屋水道で弘化 3 年（1846）10 月の布設工事であることから 180 周年となる。天童町の上水道は、大正 14 年（1925）4 月で竣工 100 年を迎えた。

ここでは、天童町上水道について紹介していきたい。

ことの発端は、大正 9 年（1920）当時の町長仲野半四郎氏をはじめとして、町議会では、水道計画調査費として町会費で 200 円を計上、2 か年にわたり各地の調査を行う。大正 11 年（1922）時の町長西澤定吉氏は水道事業について急務の事業であるとして、その実現に向け努力を続けた。しかし、町内に水源を求めることができず、同東村山郡山寺村大字荒谷字小才勝、立谷川右岸の地下伏流水が最とも有望であるとし、山形県吏員田中長吉技手に依嘱して実務的な実地調査を行い、その結果、水量も豊富で水質良好と判明した。

それを受け、大正 11 年（1922）12 月 16 日の町会で満場一致で可決され、翌年から 2 か年継続事業として布設工事を行うことになり、委員として 24 名指名選出し委員会を構成した。しかし、財政的に天童町は財政困窮の状態、巨額の資金を投資できない状態であった。総工費 29 万円、そのため、県費補助を仰がなければ実現できないとなった。大正 12 年（1923）12 月 20 日県に対し補助申請を提出、当事者などからの陳情書を臨時県議会に提案され、要求通り 28 万円に対する 5 分の県費